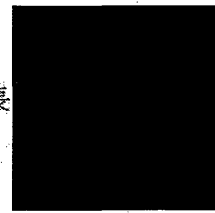


(様式9)

群大医総605号
平成19年10月2日

厚生労働大臣 殿

群馬大学医学部附属病院長
石川



群馬大学医学部附属病院の特定機能病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式10)
- 2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式11)
- 3. 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	61人
--------	-----
- 4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照 (様式12)
- 5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照 (様式13)
- 6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照 (様式13)

7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	209人	266人	439.6人	看護業務補助	2人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	7人	19人	24.8人	理学療法士	7人	臨床検査技師	51人
薬 剤 師	38人	14人	50.5人	作業療法士	4人	衛生検査技師	1人
保 健 師	0人	1人	0.7人	視能訓練士	2人	其 他	1人
助 産 師	17人	0人	17.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	496人	49人	530.6人	臨床工学技士	7人	医療社会事業従事者	2人
准看護師	3人	10人	8.8人	栄 養 士	1人	その他の技術員	4人
歯科衛生士	2人	0人	2.0人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	140人
管理栄養士	4人	0人	4.0人	診療放射線技師	42人	其 他 の 職 員	3人

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	610.4人	11.2人	621.5人
1日当たり平均外来患者数	1,714.6人	74.0人	1,788.6人
1日当たり平均調剤数	15,050.7剤 (983.0件)		

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・性腺機能不全の早期診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	0人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・抗がん剤感受性試験	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	0人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下肝切除術	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	0人
・画像支援ナビゲーション手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	7人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	6人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	0人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・ <input type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・神経変性疾患のDNA診断	有・無	5人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・無	0人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	0人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・無	0人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	0人
・カフェイン併用化学療法	有・無	0人
・31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	0人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・無	0人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	0人
・遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断	有・無	0人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・無	0人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	0人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	0人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・無	0人
・脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術	有・無	1人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	5人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	0人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・無	0人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	0人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	0人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	0人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・無	0人
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・無	0人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	0人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	0人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	0人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	0人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・無	0人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	0人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・無	0人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	0人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	7人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	0人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	0人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	0人
・頰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・無	0人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	0人
・活性化血小板の検出	有・無	0人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	0人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・無	0人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	0人
・末梢血幹細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・無	0人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	0人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類(歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	<input checked="" type="radio"/> 有・無	7人
・顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・レーザー応用による齶蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <input type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
強度変調放射線治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
胎児心超音波検査	有・ <input type="radio"/> 無	0人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	0人
顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	0人
人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	0人
歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	0人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
超音波骨折治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
眼底三次元画像解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラレーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	73 人	・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	43 人
・多発性硬化症	76 人	・ウェグナー肉芽腫症	14 人
・重症筋無力症	107 人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	61 人
・全身性エリテマトーデス	289 人	・多系統萎縮症	15 人
・スモン	4 人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	6 人
・再生不良性貧血	41 人	・膿疱性乾癬	6 人
・サルコイドーシス	149 人	・広範脊柱管狭窄症	4 人
・筋萎縮性側索硬化症	56 人	・原発性胆汁性肝硬変	20 人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	285 人	・重症急性膵炎	2 人
・特発性血小板減少性紫斑病	94 人	・特発性大腿骨頭壊死症	37 人
・結節性動脈周囲炎	24 人	・混合性結合組織病	24 人
・潰瘍性大腸炎	142 人	・原発性免疫不全症候群	4 人
・大動脈炎症候群	33 人	・特発性間質性肺炎	11 人
・ピュルガー病	47 人	・網膜色素変性症	21 人
・天疱瘡	43 人	・プリオン病	1 人
・脊髄小脳変性症	62 人	・原発性肺高血圧症	8 人
・クローン病	47 人	・神経線維腫症	13 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2 人	・亜急性硬化性全脳炎	1 人
・悪性関節リウマチ	10 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3 人
・パーキンソン病関連疾患	221 人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	4 人
・アミロイドーシス	7 人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	2 人
・後縦靭帯骨化症	39 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・ハンチントン病	4 人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1ヶ月に6回程度	
剖検の状況	剖検症例数 50 例	剖検率 16.3 %

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元
樹状細胞を用いたアレルギー疾患治療の基礎的研究:レドックス制御を基盤とした検討	宇津木 光克	第一内科	1,700,000	文部科学省
RNA干渉による変異型RASの発現抑制が肺癌の増殖やシグナル伝達系に与える影響	砂長 則明	第一内科	1,600,000	文部科学省
DNAマイクロアレイを用いた赤痢アメーバ病原機構の網羅的解明	石塚 高広	第一内科	1,900,000	文部科学省
摂食抑制を示す新たなPPAR γ 応答性分泌蛋白のノックアウトマウス解析と臨床応用	森 昌朋	第一内科	4,700,000	文部科学省
ホルモン受容機構障害に関する調査研究	森 昌朋	第一内科	2,000,000	厚生労働省
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	森 昌朋	第一内科	1,400,000	厚生労働省
ペーテセルリン受容体のクローニングと新規糖尿病治療法の開発	岡田 秀一	第一内科	700,000	文部科学省
TRHノックアウトマウスより単離した新規摂食関連脳内ペプチドmDPIの解析	山田 正信	第一内科	1,000,000	文部科学省
L3分画および血流中癌細胞テロメラーゼを指標とした肝細胞癌のサーベイランスの有用性	高木 均	第一内科	1,800,000	厚生労働省
ファージディスプレイを用いたHCVコア蛋白に対する分子標的薬の創生	佐藤 賢	第一内科	1,300,000	文部科学省
プロトン感受性受容体による慢性気道炎症の制御	石塚 全	第一内科	1,800,000	文部科学省
肺線維症に対する新たな治療戦略の確立ーフォリスタチンによる筋線維芽細胞の制御	青木 史暁	第二内科	2,400,000	文部科学省
血管石灰化の転写制御機構の解明	倉林 正彦	第二内科	9,800,000	文部科学省
動脈硬化におけるNotch-HERP経路の役割の解明と新規治療法の開発	倉林 正彦	第二内科	800,000	文部科学省
心筋の収縮・弛緩制御分子を標的とした新規心不全治療法の開発	新井 昌史	第二内科	6,000,000	文部科学省
Notchシグナルによる血管平滑筋細胞分化調節機構の解明	磯 達也	第二内科	1,700,000	文部科学省
遺伝子改変モデル動物を用いた肺気腫の病態形成と喫煙感受性の分子メカニズムの解明	須賀 達夫	第二内科	1,800,000	文部科学省
糖鎖シグナルの異常による肺気腫の発生機構の解明と治療戦略	前野 敏孝	第二内科	100,210	厚生労働省
腎幹細胞特異的マーカーおよびその活性化因子の探索	前嶋 明人	第三内科	1,340,000	文部科学省
腎再生に関する幹細胞の同定とその制御に関する研究	野島 美久	第三内科	2,000,000	文部科学省
自己免疫疾患におけるCD47-SHPS-1シグナル系の機能解析	金子 和光	第三内科	2,100,000	文部科学省
司法精神医学の人材育成等に関する研究	三國 雅彦	精神科神経科	2,000,000	厚生労働省
ヒトを対象にした精神疾患の生物学的病態解明に関する研究	三國 雅彦	精神科神経科	14,462,000	厚生労働省
統合失調症・気分障害における社会的認知障害の脳基盤についてのNIRS・MEG研究	福田 正人	精神科神経科	3,000,000	文部科学省
近赤外線スペクトロスコピによる精神疾患診断システムの確立についての共同研究	福田 正人	精神科神経科	1,890,000	文部科学省
新生児期におけるグリア型グルタミン酸トランスポーターの生理的および病態的役割	塚田 昌大	小児科	2,600,000	文部科学省
エピジェネティクスによる小児アレルギー疾患の病態へのアプローチ	森川 昭廣	小児科	1,300,000	文部科学省
アレルギー性疾患の発症・進展・重症化の予防に関する研究	荒川 浩一	小児科	4,000,000	厚生労働省
アトピー性皮膚炎の発症および悪化因子の同定と発症予防・症状悪化防止のための生活環境	望月 博之	小児科	2,000,000	厚生労働省
神経の極性を失ったマウスの作製とその分子細胞学的解析	村松 一洋	小児科	900,000	文部科学省
C型肝炎ウイルスの母子感染成立に寄与する因子の同定	田村 一志	小児科	1,100,000	文部科学省
肝幹細胞のクローニングと肝内局在部位の同定に基づく肝組織再生機序の解明	小暮 公孝	第一外科	3,800,000	文部科学省
大量培養した肝上皮性幹細胞の機能肝細胞への分化誘導と機能オルガノイドの作成	小暮 公孝	第一外科	1,300,000	文部科学省
合成糖鎖による抗腫瘍効果の解析ー新規抗がん剤の開発を目指してー	浅尾 高行	第一外科	4,900,000	文部科学省
食道癌の発生と進展のメカニズムの解明	山口 悟	第一外科	500,000	文部科学省
肝・胆・膵癌におけるGalectin-3によるWnt系の制御	志村 龍男	第一外科	1,000,000	文部科学省
新規細径圧センサーを用いた胃切除後胆道内圧上昇のメカニズムの検討	持木 彫人	第一外科	900,000	文部科学省
癌性胸・腹膜炎に対する糖代謝酵素標的治療と新規ワクチン療法	堤 莊一	第一外科	700,000	文部科学省
肺癌における臓器特異的転移制御分子の探求	中野 哲宏	第二外科	1,000,000	文部科学省
乳癌における核内受容体SXRの意義と新たな治療法の開発	六反田 奈和	第二外科	2,100,000	文部科学省
乳癌細胞におけるエストロゲン反応性遺伝子発現の核内受容体SXRによる活性化機構	堀口 淳	第二外科	1,100,000	文部科学省

小計 41

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元
乳癌進展における環境化学物質の影響～新たな除去法、治療法の開発を目指して	鯉淵 幸生	第二外科	2,300,000	文部科学省
AMPA型グルタミン受容体の肺癌における役割	清水 公裕	第二外科	1,300,000	文部科学省
自己分泌型細胞運動刺激因子の骨分化における役割の検討	柳川 天志	整形外科	2,900,000	文部科学省
レトロウイルス以外のRNAウイルスもヒト細胞内で逆転写される	清水 晶	皮膚科	1,800,000	文部科学省
脂質メディエーターを介する皮膚線維化機構の解析とその臨床応用	石川 治	皮膚科	1,700,000	文部科学省
強皮症における病因解明と根治的治療法の開発	石川 治	皮膚科	800,000	厚生労働省
難治性皮膚創傷に対する増殖因子カクテル療法の臨床応用に関する基礎的研究	安部 正敏	皮膚科	800,000	文部科学省
siRNAを用いたサイトカイン制御による円形脱毛症治療法の開発	中村 元信	皮膚科	1,800,000	文部科学省
スフィンゴ脂質による皮膚細胞外基質関連遺伝子の制御機構について	山中 正義	皮膚科	1,500,000	文部科学省
精神的ストレスによる痒みとその制御ーアトピー性皮膚炎発症モデルマウスを用いてー	天野 博雄	皮膚科	1,300,000	文部科学省
前立腺癌の遺伝子解析:1p36・8p23領域における責任遺伝子の同定	鈴木 和浩	泌尿器科	3,100,000	文部科学省
血清脂質と前立腺癌:レムナントリポプロテインの役割とエンドカンの意義	鈴木 和浩	泌尿器科	1,500,000	文部科学省
早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究	鈴木 和浩	泌尿器科	300,000	厚生労働省
前立腺癌の発生・増殖・進展にかかわる食環境因子の予防医学的研究	伊藤 一人	泌尿器科	1,600,000	文部科学省
がん検診の適正な方法とその評価法の確立に関する研究	伊藤 一人	泌尿器科	1,000,000	厚生労働省
がん専門医療施設を活用したがん診察の標準化に関する研究	伊藤 一人	泌尿器科	1,400,000	厚生労働省
前立腺癌予見因子としての血清インシュリン様成長因子・PSA関連マーカーの有用性	山本 巧	泌尿器科	1,900,000	文部科学省
前立腺癌および腎癌に対するアポトーシス抑制因子、サバイビンの効果に関する研究	小池 秀和	泌尿器科	1,300,000	文部科学省
網膜細胞腫硝子体播種に対する抗癌剤灌流療法の検討	下田 幸紀	眼科	2,000,000	文部科学省
良好な視機能温存を目標とした眼部悪性腫瘍の新しい集学的治療法の開発	岸 章治	眼科	1,500,000	厚生労働省
加齢黄斑変性症の病態における分子生物学的メカニズム	秋山 英雄	眼科	2,600,000	文部科学省
頭頸部癌ワクチン開発に向けたヒト乳頭腫ウイルスとp53変異に対する免疫応答の解析	坂倉 浩一	耳鼻咽喉科	2,600,000	文部科学省
仮想現実空間で誘起される平衡障害の脳機能画像を用いた評価	古屋 信彦	耳鼻咽喉科	1,200,000	文部科学省
頭頸部癌患者における末梢血中微量癌細胞の同定法の開発と個別化がん治療への応用	古屋 信彦	耳鼻咽喉科	1,700,000	文部科学省
前庭機能異常に関する調査	古屋 信彦	耳鼻咽喉科	1,200,000	厚生労働省
インテグリン関連分子CD47の内耳免疫における生理的役割の解析	宮下 元明	耳鼻咽喉科	1,800,000	文部科学省
制御性T細胞を用いた新しいアレルギー性鼻炎の治療に関する基礎的研究	豊田 実	耳鼻咽喉科	1,800,000	文部科学省
頭頸部癌微小転移検出法の開発とセンチネルリンパ節生検への応用	櫻井 努	耳鼻咽喉科	1,400,000	文部科学省
抗p53抗体と抗p53T細胞応答を利用した新しい頭頸部癌の診断・治療法の開発	近松 一朗	耳鼻咽喉科学	800,000	文部科学省
低酸素細胞の分子生物学的特徴と治療への応用の可能性	江原 威	放射線科	2,500,000	文部科学省
血管新生を標的とした治療の放射線療法への応用に関する基礎的検討	石川 仁	放射線科	1,200,000	文部科学省
脳ニューロン・グリア細胞の放射線感受性とその修飾に関する分子生物学的研究	鈴木 義行	放射線科	900,000	文部科学省
ヒト膠芽腫における新規アポトーシス抑制因子の発現と放射線感受性に関する研究	白井 克幸	放射線科	2,400,000	文部科学省
フリッケゲル線量計による定位放射線照射と高線量率組織内照射の3次元線量分布解析	野田 真永	放射線科	1,400,000	文部科学省
分子標的治療の放射線治療への応用のための放射線感受性制御に関する基礎的研究	中野 隆史	放射線科	2,800,000	文部科学省
加速器テクノロジーによる医学・生物学研究	中野 隆史	放射線科	146,320,000	文部科学省
放射線照射における血管内皮細胞の応答とサイトカインとの関連	清原 浩樹	放射線科	2,500,000	文部科学省
高LET重イオン線によるアポトーシス誘導およびシグナル伝達の検討	野中 哲生	放射線科	800,000	文部科学省
低酸素細胞を特異的標的とする放射線治療法の開発	櫻井 英幸	放射線科	1,000,000	文部科学省
アミノ酸輸送担体を標的とした肺癌のPET診断および個別的内照射併用治療の研究	樋口 徹也	核医学科	1,100,000	文部科学省

小計 40

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元
標識抗体を利用したがん治療	遠藤 啓吾	核医学科	25,600,000	文部科学省
ポジトロンCTのがん検診への応用と精度向上に関する研究	遠藤 啓吾	核医学科	1,200,000	厚生労働省
ゴナドトロピン受容体多型解析による不妊治療の個別化	峯岸 敬	産科婦人科	5,300,000	文部科学省
ゴナドトロピンレセプターの新たな発現調節メカニズムの発見	中村 和人	産科婦人科	1,800,000	文部科学省
ヒト卵巣顆粒膜細胞におけるERK, Akt活性化の機序の解明	平川 隆史	産科婦人科	1,200,000	文部科学省
絨毛膜羊膜炎で産生されるインヒビン・アクチンファミリー蛋白質の網羅的検索と解析	安部 由美子	産科婦人科学	1,300,000	文部科学省
神経終末構成蛋白シタキシン3ノックアウトマウスを用いた神経障害性疼痛の解明	入内島 伸尚	麻酔科蘇生科	1,360,000	文部科学省
カルシウムイオン透過型AMPA受容体のニューロパシクペインにおける役割の解明	安藤 光	麻酔科蘇生科	1,900,000	文部科学省
「痛み」は人の脳でどう伝わるか？一脳磁図で迫る痛覚メカニズム	荻野 祐一	麻酔科蘇生科	2,000,000	文部科学省
分解吸収性素材を応用した徐放化栄養因子・麻酔薬による慢性痛治療法の開発	戸部 賢	麻酔科蘇生科	1,100,000	文部科学省
マイクロイオンビームによる神経障害性疼痛モデルの作成と中枢神経反応の解析	後藤 文夫	麻酔科蘇生科	1,900,000	文部科学省
脊髄グリア細胞の活性化と慢性痛—マイクログリアの抑制は痛覚過敏を抑制するか？—	小幡 英章	麻酔科蘇生科	800,000	文部科学省
麻酔薬の中枢神経作用におけるGABA受容体と抑制ニューロンネットワークの役割	西川 光一	麻酔科蘇生科	1,500,000	文部科学省
麻酔薬は記憶形成を阻害するか？	西川 光一	麻酔科蘇生科	1,500,000	文部科学省
徐放化栄養因子および細胞移植を用いた神経傷害後の再生促進法と慢性痛治療法の開発	齋藤 繁	麻酔科蘇生科	600,000	文部科学省
カルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)による血管拡張作用に及ぼす麻酔薬の影響	黒田 昌孝	麻酔科蘇生科	1,300,000	文部科学省
術後痛に対するモノアミン選択的再取り込み阻害薬の鎮痛作用とその機序の解明	肥塚 史郎	麻酔科蘇生科	900,000	文部科学省
GABA合成酵素欠損マウスを用いた全身麻酔薬作用の電気生理学的・行動学的解析	久保 和宏	麻酔科蘇生科	900,000	文部科学省
神経膠芽腫の浸潤性増殖の機構解析—PART II	石内 勝吾	脳神経外科	1,700,000	文部科学省
脳血管攣縮に対するプロスタサイクリン合成酵素遺伝子の導入	吉田 貴明	脳神経外科	700,000	文部科学省
神経再生医療へのトランスレーショナルリサーチ—ミニブタ脳梗塞モデルの応用—	今井 英明	脳神経外科	900,000	文部科学省
脳血管攣縮に於けるスフィンゴシン-1-リン酸受容体を介した多様なシグナル伝達機構	登坂 雅彦	脳神経外科	1,200,000	文部科学省
アンジオテンシン2の脳梗塞に及ぼす影響の探求—虚血下活性酸素種に着目して—	風間 健	脳神経外科	2,700,000	文部科学省
パーキンソン病と筋萎縮性側索硬化症の病態解明に関する神経病理学的研究	岡本 幸市	神経内科	2,200,000	文部科学省
神経変性疾患に関する調査研究	岡本 幸市	神経内科	1,000,000	厚生労働省
急性脳炎のグルタミン酸受容体自己免疫病態の解明から新たな治療法確立に向けた研究	岡本 幸市	神経内科	800,000	厚生労働省
スモンに関する調査研究	岡本 幸市	神経内科	700,000	厚生労働省
特定疾患患者の自立支援体制の確立に関する研究	岡本 幸市	神経内科	700,000	厚生労働省
神経細胞の機能維持に関わるコレステロールの研究:病態成立との接点を求めて	山崎 恒夫	神経内科	1,600,000	文部科学省
α 、 β シネミンの遺伝子発現解析と α シネミンに結合するタンパク質の同定	水野 裕司	神経内科	2,100,000	文部科学省
神経原線維変化形成におけるプレセニン、GSK-3 β の分子病態の解析	池田 将樹	神経内科	1,500,000	文部科学省
甲状腺ホルモン受容体AF-2領域変異体ノックインマウスの作製と解析	渋谷 信行	内分泌内科	1,300,000	文部科学省
PPARの転写共役因子PDIP1ノックアウトマウスにおける代謝異常の分子病態解析	佐藤 哲郎	内分泌内科	2,200,000	文部科学省
乳癌術後患者の更年期様症状に対する新たな治療法の開発—漢方薬の有効性と安全性—	小暮 敏明	統合和漢診療学	1,700,000	文部科学省
血管壁石灰化の分子機序—血管平滑筋細胞は骨芽細胞に分化するか？	佐藤 浩子	統合和漢診療学	1,500,000	文部科学省
ヒト卵巣顆粒膜細胞上でのゴナドトロピンレセプター動態とその機能	岸 裕司	周産母子センター	1,000,000	文部科学省
抗原特異的CD8T細胞の活性化後誘導細胞死におけるインターロイキン-15の役割	矢島 俊樹	周産母子センター	1,000,000	文部科学省
小型ポンプによる冠灌流と単純浸漬を組み合わせた搬送型臓器保存装置による長時間心保存	大嶋 清宏	集中治療部	900,000	文部科学省
鎮静薬投与患者末梢血単核球のNF- κ B転写活性、サイトカイン産生能の検討	國元 文生	集中治療部	1,000,000	文部科学省

小計 39

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元
アクチビンを用いた虚血性心疾患に対する新しい血管新生療法 法の確立	林 淑朗	集中治療部	700,000	文部科学省
敗血症由来の中樞神経障害におけるHMBG-1の関与	門井 雄司	手術部	1,800,000	文部科学省
冠動脈疾患の新しいバイオマーカーとしてのリポ蛋白中リゾ リン脂質バランス変化	桑原 敦志	感染制御部	1,300,000	文部科学省
高密度リポ蛋白質HDLの抗動脈硬化作用とスフィンゴシン 1-リン酸	木村 孝徳	検査部	2,200,000	文部科学省
甲状腺機能異常症の新たな分子病態の解明	村上 正巳	検査部	1,400,000	文部科学省
非アルコール性脂肪性肝炎の病態における核内レセプターC ARの役割	柿崎 暁	光学医療診療部	1,800,000	文部科学省
GCPの運用と治験の倫理的・科学的な質の向上に関する研究	堀内 龍也	薬剤部	450,000	厚生労働省
脳腫瘍の生物学的活性に基づく新しい病理診断基準の確立 に関する研究	中里 洋一	病理部	3,000,000	文部科学省
グリオーマの共通母細胞の同定とそれを分化誘導する因子の 解析	中里 洋一	病理部	1,200,000	文部科学省
神経変性疾患へのコエンザイムQ10の効果～三次元動作解 析を含めた多面的効果判定～	宗宮 真	リハビリテーション部	900,000	文部科学省
神経難病に対するリハビリテーション効果の研究	和田 直樹	リハビリテーション部	1,600,000	文部科学省
動脈硬化危険因子重積における多機能受容体CD36の分子 異常の解明と診断法の開発	中村 哲也	臨床試験部	1,400,000	文部科学省

小計 12

合計 132

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Nature. 443:709-712, 2006	Identification of nesfatin-1 as a satiety molecule in the hypothalamus.	大井晋介	第一内科
Endocr J. 53:859-863, 2006	Loss of consciousness and hypokalemia in an elderly man with a mutation of the thiazide-sensitive Na-Cl cotransporter gene.	橋田 哲	第一内科
Endocrinology. 147:4292-4302, 2006	Mouse sterol response element binding protein-1c gene expression is negatively regulated by thyroid hormone.	橋本貢士	第一内科
Endocrinology. 147:2591-2596, 2006	Prolactin secretion in mice with thyrotropin-releasing hormone deficiency.	山田正信	第一内科
Diabet Med. 23:253-257, 2006	Pioglitazone increases circulating adiponectin levels and subsequently reduces TNF-alpha levels in Type 2 diabetic patients: a randomized study.	清水弘之	第一内科
J Biol Chem. 281:295-302, 2006	Cross-talk between thyroid hormone receptor and liver X receptor regulatory pathways is revealed in a thyroid hormone resistance mouse model.	橋本貢士	第一内科
J Immunol. 2006 Oct 1;177(7) :4550-7.	Rac1 negatively regulates lipopolysaccharide-induced IL-23 p19 expression in human macrophages and dendritic cells and NF-kappaB p65 trans activation plays a novel role.	宇津木光克	第一内科
Immunopharmacol I Immunotoxicol. 2006;28(2) :295-304.	Intracellular Th1/Th2 balance of pulmonary CD4 (+) T cells in patients with active interstitial pneumonia evaluated by serum KL-6.	清水泰夫	第一内科
Tohoku J Exp Med. 2006 Aug;209(4) :329-36.	High prevalence of gastroesophageal reflux disease with minimal mucosal change in asthmatic patients.	清水泰夫	第一内科
Tohoku J Exp Med. 2006 Jul;209(3):181-9.	A proton pump inhibitor, lansoprazole, ameliorates asthma symptoms in asthmatic patients with gastroesophageal reflux disease.	清水泰夫	第一内科
Tuberculosis (Edinb). 2006 Sep;86(5) :374-81.	DNA microarray genotyping of N-acetyltransferase 2 polymorphism using carbodiimide as the linker for assessment of isoniazid hepatotoxicity.	清水泰夫	第一内科
In "Vitamin E; New research." Nova Publishers. 2006	Vitamin E and liver diseases.	柿崎 暁	第一内科
World J Gastroenterol 12: 659-661, 2006	Different outcomes of nosocomial infection with hepatitis C virus from the same origin.	柿崎 暁	第一内科

小計 13 件

J Hepatol. 44: 236-239, 2006	Adult onset citrullinemia type II is one of the causes of non-alcoholic steatohepatitis (NASH).	高木 均	第一内科
J Gastroenterol. 41:283-5, 2006	Adefovir dipivoxil monotherapy is a sufficiently effective treatment modality for Japanese patients with lamivudine-resistant chronic hepatitis B.	佐藤 賢	第一内科
Trends in Bone Cancer Research. Chapter II p21-28, Ed. By Birch EV, Nova Science Publishers, Inc. Horizons in Cancer research Volume 24, 2006	Treatment for the bone metastasis of liver cancer.	高木 均	第一内科
Liver Int. 27: 109-119, 2007	Gene expression profiles of drug-metabolizing enzymes and transporters with an overexpression of hepatocyte growth factor.	柿崎 暁	第一内科
J Gastroenterol Hepatol, 22: 518-522, 2007	Preventive effects of vitamin K on recurrent disease in patients with hepatocellular carcinoma arising from hepatitis C viral infection.	柿崎 暁	第一内科
J. Biol. Chem. 281:28555-28564, 2006	Jagged1-selective notch signaling induces smooth muscle differentiation via a RBP-Jkappa-dependent pathway.	Doi H	第二内科
Hypertens. Res. 28:937-43, 2006	Selective angiotensin receptor antagonism with valsartan decreases arterial stiffness independently of blood pressure lowering in hypertensive patients.	Nakamura T	第二内科
Int. J. Cardiol 107:78-84, 2006.	Increase in serum troponin-I following rotational atherectomy reliably predicts the occurrence of reversible wall motion abnormalities.	Suguta M	第二内科
Am J H	Successful rapid discontinuation of immunosuppressive therapy at molecular relapse after allogeneic bone marrow transplantation in a pediatric patient with myelodysplastic syndrome.	Tamura K, Kanazawa T, Morikawa A.	小児科
J Asthma. 4	Evaluation of bronchial hyperresponsiveness by monitoring of transcutaneous oxygen tension and arterial oxygen saturation during methacholine challenge in asthmatic children.	Wang J, Mochizuki H, Morikawa A.	小児科
Circulation. 113 (22):2606-12. (2006)	Prediction of intravenous immunoglobulin unresponsiveness in patients with Kawasaki disease.	Kobayashi T, Inoue Y, Morikawa A.	小児科
Res. Adv. In Hematology 1:1-12 (2006)	Detection of minimal residual disease : Clinical utility in myelodysplastic syndrome in children.	Tamura K.	小児科
European Journal of Cancer Vol.42, p256-263, 2006.	Prognostic significance of combined expression of MUC1 and adhesion molecules in advanced gastric cancer.	Ohno T, Aihara R, Kuwano H et al.	第一外科

小計 13 件

World J Gastroenterol 28;12(4) :p652-655, 2006.	Hepatic adenomatosis associated with hormone replacement therapy and hemosiderosis: A case report.	Hagiwara S, Takagi H, Mori M et al.	第一外科
Surg Laparosc Endosc Percutan tech Vol.15, No.6, Dec, p339-344, 2005.	Videoscopic thyroidectomy with fine needle-type apparatuses.	Asao T, Kuвано H, Yanagita Y et al.	第一外科
Hepato-Gastroenterology Vol.53, March-April, p196-200, 2006.	Second-Line Combination Chemotherapy of Oral S-1 with Cisplatin and Irinotecan for Colorectal Cancer resistant to 5-FU.	Tsutsumi S, Yamaguchi S, Kuвано H et al.	第一外科
Hepato-Gastroenterology Vol.53, March-April, p206-208, 2006.	Gum-chewing Stimulates Bowel Motility after Surgery for Colorectal Cancer.	Hirayama I, Suzuki M, Kuвано H et al.	第一外科
Hepato-Gastroenterology Vol.53, March-April, p209-212, 2006.	Oral Regimen Consisting of UFT/UZEL for Elderly Patients with Colorectal Cancer.	Tsutsumi S, Yamaguchi S, Kuвано H et al.	第一外科
The American Journal of Surgery Vol.191, p545-548, 2006.	A novel technique to facilitate laparoscopic repair of large paraesophageal hernias.	Kato H, Miyazaki T, Kuвано H et al.	第一外科
Pediatr Surg Int. Vol.22, p129-134, 2006.	Clinical characteristics and surgical treatment of perianal and perineal rhabdomyosarcoma: analysis of Japanese patients and comparison with IRSG reports.	Okamura K, Yamamoto H, Ikeda H et al.	第一外科
Anticancer Res Vol.26, p933-938, 2006.	P16 Protein Abnormality in Epstein-Barr Virus-associated Gastric Carcinomas.	Ojima H, Sito K, Kuвано H et al.	第一外科
Anticancer Res. Vol.26, p1385-1390, 2006.	Clinicopathological Characteristics and Outcome Indicators of Stage II Gastric Cancer According to the Japanese Classification of Gastric Cancer.	Ojima H, Araki K, Kuвано H et al.	第一外科
The American Journal of Surgery Vol.191, p465-469, 2006.	Sentinel lymph node mapping with technetium-99m colloidal rhenium sulfide in patients with gastric carcinoma.	Mochiki E, Kuвано H, Endo K et al.	第一外科
World J Surg Vol.30, No.4, p553-559, 2006.	Factors Predicting Long-term Responses to Splenectomy in Patients with Idiopathic Thrombocytopenic Purpura.	Ojima H, Kato T, Kuвано H et al.	第一外科
Cancer Chemother Pharmacol Vol.57, p301-308, 2006.	Differential sensitivity of paclitaxel-induced apoptosis in human esophageal squamous cell carcinoma cell lines.	Ahmad F, Leri S. F, Kuвано H et al.	第一外科

Anticancer Res. Vol.26, p1369-1376, 2006.	Reduced Galectin-3 Expression is an Indicator of Unfavorable Prognosis in Gastric Cancer.	Okada K, Shimura T, Kuвано H et al.	第一外科
European J Cancer Vol.42, p934-947, 2006.	Inhibition of the mammalian target of rapamycin (mTOR) by rapamycin increases chemosensitivity of CaSki cells to paclitaxel.	Faried L.S., Faried A, Minegishi T et al.	第一外科
Digestive and Liver Disease Vol.38,No.4, p240-244, 2006.	Effect of perioperative steroid therapy on the postoperative course of patients with oesophageal cancer.	Tsukada K, Miyazaki T, Kuвано H et al.	第一外科
Neurogastroentero I Motil, Vol.18, p129-135, 2006.	Ghrelin does not stimulate gastrointestinal motility and gastric emptying: an experimental study of conscious dogs.	Ohno T, Kamiyama Y, Kuвано H et al.	第一外科
Oncology report Vol.16, p57-63, 2006.	Predictive and prognostic role of activated mammalian target of rapamycin in cervical cancer treated with cisplatin-based neoadjuvant chemotherapy.	L.S.Faried, A.Faried, Kuвано H, Minegishi T et al.	第一外科
European J Cancer Vol.42, p1455-1465, 2006.	RhoA and RhoC proteins promote both cell proliferation and cell invasion of human oesophageal squamous cell carcinoma cell lines in vitro and in vivo.	Faried A, L.S. Faried, Kuвано H et al.	第一外科
International J Oncology No.29, p329-334, 2006.	Prolyl isomerase Pin1 expression predicts prognosis in patients with esophageal squamous cell carcinoma and correlates with cyclinD1 expression.	Fukuchi M, Fukai Y, Kuвано H et al.	第一外科
Journal of Surgical Oncology Vol.94, p51-56, 2006.	Lack of Activated Smad2 in Transforming Growth Factor- β Signaling is an Unfavorable Prognostic Factor in Patients With Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Fukuchi M, Nakajima M, Kuвано H et al.	第一外科
Int.J. Hyperthermia Vol.22, No.5, Aug, p399-406, 2006.	The synchronization of chemotherapy to circadian rhythms and irradiation in pre-operative chemoradiation therapy with hyperthermia for local advanced rectal cancer.	Asao T, Sakurai H, Kuвано H et al.	第一外科
Oncology Reports Vol.15, p1315-1319, 2006.	Expression of Foxp3 in non-small cell lung cancer patients is significantly higher in tumor tissues than in normal tissues, especially in tumors smaller than 30mm.	Ishibashi Y, Tanaka S, Kuвано H et al.	第一外科
Anticancer Res Vol.26, p3105-3110, 2006.	Immunohistochemical Expression of 14-3-3 σ Protein in Intraductal Papillary-mucinous Tumor and Invasive Ductal Carcinoma of the Pancreas.	Okada T, Masuda N, Kuвано H et al.	第一外科
British J. of Cancer Vol.95 p.532-540, 2006.	CEACAM6 gene expression in intrahepatic cholangiocarcinoma.	Ieta K, Tanaka F, Kuвано H, Mori M et al.	第一外科

Vol.97 No.11. p1248-1254, 2006.	A phase I radioimmunolocalization trial of humanized monoclonal antibody huA33 in patients with gastric carcinoma.	Sakamoto J., Oriuchi N., Kuwano H., Endo K et al.	第一外科
Oncology Reports 16:1375-1380, 2006.	The soluble form of human leukocyte antigen class I antigen causes apoptosis on hepatocellular carcinoma cell lines.	Shimura T., Suehiro T., Kuwano H. et al.	第一外科
Hepato-Gastroenterology Vol.53 No.72 p.828-830, 2006.	Anxiety in Outpatients Receiving Chemotherapy for Solid Cancer.	Tsutsumi S., Yamaki S., Kuwano H. et al.	第一外科
Clin.Cancer Res. Vol.12 No.19, 2006.	Analysis of Epidermal Growth Factor Receptor Gene Mutation in Patients with Non-Small Cell Lung Cancer and Acquired Resistance to Gefitinib.	Kosaka T., Yatabe Y., Kuwano H., et al.	第一外科
Journal of Thoracic Oncology Vol.1, No.7, September 2006, 2006.	PTEN and PIK3CA Expression Is Associated with Prolonged Survival after Gefitinib Treatment in EGFR-Mutated Lung Cancer Patients.	Endo H., Yatabe Y., Kuwano H. et al.	第一外科
Arterioscler Thromb Vasc Biol. November 2006, 2006.	Nonendothelial Mesenchymal Cell-Derived MCP-1 Is Required for FGF-2-Mediated Therapeutic Neovascularization.	Fujii T., Yonemitsu Y., Kuwano H., Sueishi K. et al.	第一外科
World J Gastroenterol Vol.23, No.11, p1805-1809, 2006	Living-related liver transplantation for multiple liver metastases from rectal carcinoid tumor: a case report.	Nakajima Y, Takagi H, Asao T,、 Kuwano H, Mori M, et al.	第一外科
Pediatrics International Vol.48, p181-184, 2006	Bilateral ovarian teratomas successfully treated by ovary-conserving technique.	Yamauchi H, Takahashi A, Morikawa A, Kuwano H et al.	第一外科
Breast J.	Human leukocyte antigen as a predictive factor of developing bilateral breast cancer in Japanese women.	Yokoe T	第二外科
World J Gastroenterol	Pharmacokinetics of paclitaxel in a hemodialysis patient with advanced gastric cancer: A case report.	Kawate S	第二外科
J Heart Lung Transplant	Effect of the free radical scavenger MCI-186 on pulmonary ischemia-reperfusion injury in dogs.	Akao T	第二外科
Anticancer Res	Significance of local recurrence as a prognostic factor in the treatment of breast cancer.	Horiguchi J	第二外科
Ann Thorac Surg	Successful video-assisted mediastinoscopic drainage of descending necrotizing mediastinitis.	Shimizu K	第二外科

小計 13 件

J Surg Res	Inhibition of cyclooxygenase-2 improves cardiac function following long-term preservation.	Oshima K	第二外科
Hepatogastroenterology.	The role of mitogen-activated protein kinases and the participation of intestinal congestion in total hepatic ischemia-reperfusion injury.	Kobayashi M	第二外科
Oncol Rep	The regulatory effect of tamoxifen on fibronectin expression in estrogen-dependent MCF-7 breast carcinoma cells.	Horii Y	第二外科
J Surg Res	A comparative study of long-term heart preservation using 12-h continuous coronary perfusion versus 1-h coronary perfusion following 11-h simple immersion.	Nameki T	第二外科
Jpn J Thorac Cardiovasc Surg.	Surgical treatment with deep hypothermia for thoracic aortic aneurysm in a patient with renal transplantation.	Takahashi T	第二外科
Arthroscopy.2007 Mar;23(3):299-304.	Histologic changes after meniscal repair using radiofrequency energy in rabbits.	畑山和久	整形外科
Am J Orthop. 2006 Dec;35(12):568-71.	A comparison of arthroscopic single- and double-bundle posterior cruciate ligament reconstruction: review of 20 cases.	畑山和久	整形外科
Spine. 2006 Dec 15;31(26):2992-6	Effects of the Second National Acute Spinal Cord Injury Study of high-dose methylprednisolone therapy on acute cervical spinal cord injury-results in spinal injuries center.	堤 智史	整形外科
Clin Physiol Funct Imaging. 2006 Nov;26(6):338-42.	Pre- and postoperative evaluation of the metabolic activity in muscles associated with ruptured rotator cuffs by F-FDG PET imaging.	篠崎哲也	整形外科
Orthopedics. 2006 Aug;29(8):693-4.	Olecranon stress fracture in a young tower-diving swimmer.	篠崎哲也	整形外科
Cytherapy. 2006;8(4):343-53.	Transplantation of autologous rabbit BM-derived mesenchymal stromal cells embedded in hyaluronic acid gel sponge into osteochondral defects of the knee.	加家壁正知	整形外科
関節の外科 (0285-6255) 34 巻 1 号 Page16-20 (2007.03)	関節リウマチの人工膝関節置換術後に生じた膝蓋腱断裂に対する再建術の経験	中島大輔 竹内公彦 松下正寿 米本由木夫 高岸憲二	整形外科
関節鏡 (0910-223X) 32 巻 1 号 Page61-66 (2007.02)	半月板切除後の MRI 骨髄信号変化の出現が中期成績に与える影響	畑山和久 木村雅史 樋口博 高岸憲二	整形外科

小計 13 件

関東整形災害外科学会雑誌 (0389-7087)37 巻6号 Page256-260 (2006.12)	大腿四頭筋拘縮症で手術的治療を行った成人の1例	細川高史 高柳聡 樋口博 佐々木泰 高岸憲二	整形外科
関東リウマチ (0911-4807)39 号 Page73-79 (2006.02)	初発時に軟部腫瘍が疑われた関節リウマチの1例	大澤貴志 篠崎哲也 渡辺秀臣 高岸憲二 竹内公彦	整形外科
日本足の外科学会雑誌 (0916-7927)27 巻2号 Page138-142 (2006.05)	距骨外側突起骨折 14 例の経験	金子哲也 高岸憲二 長谷川惇 門田聡 小林史明	整形外科
臨床整形外科 (0557-0433)41 巻7号 Page803-807 (2006.07)	骨髄異形成症候群に胸椎部脊髄腫瘍を生じた1例	割田敏朗 飯塚伯 堤智史 中島飛志 中川由美 高岸憲二	整形外科
日本整形外科学会スポーツ医学会雑誌(1340-8577)25 巻3号 Page319-324 (2006.05)	30歳以下の半月板切除後のスポーツ復帰とMRI骨髄信号強度変化の出現	畑山和久 樋口博 木村雅史 小林保一 朝雲浩人 高岸憲二	整形外科
関東整形災害外科学会雑誌 (0389-7087)37 巻2号 Page67-69 (2006.04)	肩に発生した良性間葉腫の1例	久保井卓郎 篠崎哲也 佐藤潤香 渡辺秀臣 高岸憲二	整形外科
整形外科 (0030-5901)57 巻4号 Page399-401 (2006.04)	人工膝関節全置換術前後のC反応性蛋白,赤血球沈降速度,Dダイマー値の検討	寺内正紀 樋口博 佐藤直樹 高岸憲二	整形外科
Br J Dermatol 155(6) :1159-1164, 2006	Arteriographic evaluation of vascular changes of the extremities in patients with systemic sclerosis.	Hasegawa M, Nagai Y, Tamura A, Ishikawa O.	皮膚科
Wound Repair Regen. 14(4) :457-62, 2006	Basic fibroblast growth factor stimulates human keratinocyte motility by Rac activation.	Sogabe Y, Abe M, Yokoyama Y, Ishikawa O.	皮膚科
Eur J Dermatol 16(4): 375-79, 2006	Catalase restores the altered mRNA expression of collagen and matrix metalloproteinases by dermal fibroblasts exposed to reactive oxygen species.	Zaw KK, Yokoyama Y, Abe M, Ishikawa O.	皮膚科

J Dermatol 33 (2) :108-11, 2006	Daily versus intermittent application of high-concentration tacalcitol ointment in combination with low-dose cyclosporin for psoriasis vulgaris.	T, Hasegawa Ishikawa O.	皮膚科
Br J Dermatol 155(3):522-31, 2006	Spatial expressions of fibronectin and integrins by human and rodent dermal fibroblasts.	Yasuda M, Miyachi Y, Ishikawa O, Takahashi K.	皮膚科
Mod Rheumatol 16:188-190, 2006	Drug eruption due to bosentan in a patient with systemic sclerosis.	Nagai Y, Yamanaka M, Ishikawa O.	皮膚科
Int J Dermatol 45:302-305, 2006	Compound heterozygosity in sibling patients with recessive dystrophic epidermolysis bullosa associated with a mild phenotype.	Sibusawa Y, Negishi I, Ishikawa O.	皮膚科
臨床放射線別冊 vol.51、pp.1-10、 金原出版、2006 年9月	前立腺癌 放射線治療のすべて 局所限局前立腺癌を中心に前立腺癌の疫学	伊藤一人	泌尿器科
泌尿器外科 19 (8):899-902、 2006年8月	前立腺癌に対する Ir-192 を用いた高線量率 (HDR) brachytherapy の適応, 治療方法および治療成績	伊藤一人、	泌尿器科
泌尿器外科 19 (12):1385-1390、 2006年12月	高齢者前立腺癌の診断と治療 2.高齢者における P S A 測定の意義と針生検の適応	伊藤一人	泌尿器科
眼科 (0016-4488) 48 巻 5 号 Page793-797 (2006.05)	Retinal angiomatous proliferation への光線力学的療法の治療経験	松本英孝	眼科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2006 Feb;244(2):	Triamcinolone acetonide suppresses interleukin-1 beta-mediated increase in vascular endothelial growth factor expression in cultured rat Muller cells.	板倉宏高	眼科
Immunol Immunother	Maturation of circulating dendritic cells and imbalance of T-cell subsets in patients with squamous cell carcinoma of the head and neck Cancer	Koichi Sakakura 他	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx	Mucocele in an Onodi cell with simultaneous bilateral visual disturbance	Fukuda Y, 他	耳鼻咽喉科
Acta Oto-Laryngologica	Expression of thymidylate synthase and dihydropyrimidine dehydrogenase in oral squamous cell carcinoma: possible markers as predictors of clinical outcome	Sakakura K, 他	耳鼻咽喉科
J Neuroscience	CD47 Promotes Neuronal Development through Src-and FRG/Vav2-Mediated Activation of Rac and Cdc42	Murata T, 他	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科・頭頸 部外科	campomelic dysplasia	鎌田英男 他	耳鼻咽喉科

日本耳鼻咽喉科 専門医通信	鼻骨骨折の取り扱い	古屋信彦	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科・頭 頸部外科	シリーズ／DPCに対応したクリニカルパスの実際 ③めまい(前庭機能障害)	鎌田英男 他	耳鼻咽喉科
アレルギーの臨 床	アレルギー性結膜炎を合併したアレルギー性鼻 炎への対応	鎌田英男 他	耳鼻咽喉科
JOHNS	オスラー病の鼻出血にどう対処するかーアルコ ール注入による効果療法の立場からー	長井今日子 他	耳鼻咽喉科
第16回日本耳 科学会ランチョ ンセミナー	外来診察に必要な癌晋の知識	古屋信彦	耳鼻咽喉科
放射線医科学 ー生体と放射線 ・電磁波・超音 波ー.学会出版 s センター P94-97 2006	粒子線治療(陽子線治療、重粒子線治療)	中野隆史	放射線科
Jpn J Hypertheric Oncol 22(2) :61-69 2006	Tumor targeting with hyperthermia	Sakurai H	放射線科
Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2006 Nov 15;66 (4):1084-91. Epub 2006 Sep 18. 2006	Risk factors of late rectal bleeding after carbon ion therapy for prostate cancer.	Ishikawa H, 他	放射線科
Journal of Gastroenterology and Hepatology 21 (8), 1290-1296. August 2006	Radiation therapy alone for stage I (UICC T1N0M0) squamous cell carcinoma of the esophagus: Indications for surgery or combined chemoradiotherapy	Ishikawa H, 他	放射線科
Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2006 Dec 1;66(5) :1347-55. Epub 2006 Sep 18 2006	Cyclooxygenase-2 impairs treatment effects of radiotherapy for cervical cancer by inhibition of radiation-induced apoptosis.	Ishikawa H, 他	放射線科
Clin Cancer Res. 2006 Apr 1;12(7 Pt 1):2185-90 2006	Carbon beam therapy overcomes hypoxia-originating radiation-resistant nature of uterine cervical cancer.	Nakano T, 他	放射線科
European Journal of Cancer 42(7), 934-947, May 2006	Inhibition of the mammalian target of rapamycin (mTOR) by rapamycin increases chemosensitivity of CaSki cells to paclitaxel.	Kanuma T, Nakazato T, Tamura T, Kuвано H, Minegishi T	産科婦人科

小計 12件

ONCOLOGY REPORTS 16(1) :57-63, 2006	Predictive and prognostic role of activated mammalian target of rapamycin in cervical cancer treated with cisplatin-based neoadjuvant chemotherapy.	Sano T, Nakazato T, Tamura T, Kuвано H, Minegishi T	産科婦人科
Reproductive Biology and Endocrinology 4:27, 2006 May	Identification of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin (TCDD)-inducible genes in human amniotic epithelial cells.	Abe Y, Shinozaki H, Takagi T, Minegishi T,	産科婦人科
Molecular and Cellular Endocrinology 2 (260-262) ,117-125, 2007 Jan	The Effect of Splice Variant of the Human Luteinizing Hormone (LH) Receptor on the expression of gonadotropin receptor.	Minegishi T, Nakamura K, Yamashita S, Omori Y.	産科婦人科
International Journal of Gynecological Cancer, 17:426-432.2007 Mar-Apr	R1-Sperm protein 17 influences the tissue-specific malignancy of clear cell adenocarcinoma in human epithelial ovarian cancer.	Nakazato T, Kanuma T, Tamura T, Fariel LS, Aoki H, Minegishi T.	産科婦人科
Journal of Clinical Monitoring and Computing	The influence of sevoflurane on the bispectral index, regional cerebral oxygen saturation, and propofol concentration during propofol/N2O anesthesia.	西川光一	麻酔科蘇生科
Journal of Clinical Monitoring and Computing	The effects of the extent of spinal block on the BIS score and regional cerebral oxygen saturation in elderly patients:-A prospective, randomized, and double-blinded study-	西川光一	麻酔科蘇生科
Journal of Clinical Monitoring and Computing	Comparison of effects of rapid colloid loading before and after spinal anesthesia on maternal hemodynamics and neonatal outcomes in cesarean section.	西川光一	麻酔科蘇生科
Journal of Neurosurgical Anesthesiology	The effects of volatile anesthetics on intraoperative monitoring of myogenic motor evoked potentials to transcranial electrical stimulation and on partial neuromuscular blockade during propofol/fentanyl/nitrous oxide anesthesia in humans.	関本研一	麻酔科蘇生科
Br J Clin Pharmacol	Disposition and pharmacodynamics of propofol during isovolaemic haemorrhage followed by crystalloid resuscitation in humans.	滝澤恵理	麻酔科蘇生科
Cereb Cortex	Inner experience of pain: Imagination of pain while viewing images showing painful events forms subjective pain representation in human brain.	萩野祐一	麻酔科蘇生科
群馬県歯科医学 会雑誌 10: 27-31, 2006.	「Denta Scan (歯科用 CT ソフトウェア) 画像のインプラント治療への使用経験」	中曾根良樹, 久保田文隆, 宮久保満之, 他	歯科口腔外科

小計 11件

Annals of Nuclear Medicine 21:129-135,2007.	「Diagnosis of maxillofacial tumor with L-3-[18F]-fluoro- α -methyltyrosine (FMT) PET: a comparative study with FDG-PET.]	Miyakubo M, Oriuchi N, Tsushima Y, et al.	歯科口腔外科
Int. J. Dev. Biol. 51: 123-129, 2007.	「Cadherin-6 is required for zebrafish nephrogenesis during early development.	Kubota F, Murakami T, Mogi K, et al.	歯科口腔外科
Neurol Med Chir (Tokyo). 2006 Mar;46(3):111-7.	Nestin expression in vascular malformations: a novel marker for proliferative endothelium.	Shimizu T, Sugawara K, Tosaka M, Saito N	脳神経外科
Surgery Today	Factors associated with postoperative cognitive dysfunction in patients with cardiac surgery	門井雄司	手術部
J Anesthesia	Effects of AM 281, a cannabinoid antagonist, on circulatory deterioration and cytokine production in endotoxin shock model – Comparison with norepinephrine.	門井雄司	手術部
J Clinical Anesth	Effects of antihypertensive medication on left ventricular function during electroconvulsive therapy: study by transthoracic echocardiography.	門井雄司	手術部
Anesth. Analg	Comparative effects of sevoflurane versus isoflurane on cerebrovascular carbon dioxide reactivity in patients with diabetes mellitus.	門井雄司	手術部
International Orthopedics (SICOT) 2006, 30:43-47	Changes in biochemical parameters after anterior cruciate ligament injury.	Higuchi H, Shirakura K, Watanabe H, Takagishi K	リハビリテーション部
機能性食品と薬理栄養, Vol.3 No.4, 2006, 227-230	CoQ10の研究 CoQ10の臨床的研究 神経変性疾患	宗宮真, 白倉賢二, 岡本幸市, 山本順寛	リハビリテーション部
Journal of Clinical Rehabilitation, Vol.15 No.9, 2006, 852-857	臨床にいかすりハビリテーション診断学 高齢者の腰痛	清水透	リハビリテーション部

小計 10 件
計 133 件

- (注) 1 該当医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 1 2)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 石川 治
管理担当者氏名	総務課長：中島玉男 医療サービス課長：狩野源三 薬剤部長：堀内龍也

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録	診療業務日誌	総務課	※1 ・入院診療録（カルテ）及び外来診療録（カルテ）については、医療サービス課診療情報管理係において一患者一ファイル方式により管理している。
	手術記録	手術部	
	処方せん	薬剤部	
	看護記録	看護部	
	診療録（カルテ） ※1	医療サービス課 （診療情報管理係）	※2 ・エックス線フィルムは、入外別に診療科で保管している。
	エックス線写真 ※2	各診療科	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業員数を明らかにする帳簿	総務課	/
	高度の医療の提供の実績	医療サービス課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療サービス課	
	高度の医療の研修の実績	各診療科	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課 薬剤部	
	規則第9条第1号及び第11条各号に掲げる専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療サービス課	
	規則第9条第2号及び第11条各号に掲げる専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療サービス課	
	規則第9条第3号及び第11条各号に掲げる医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療サービス課	
	規則第9条第3号及び第11条各号に掲げる当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課	
	規則第9条第3号及び第11条各号に掲げる医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療サービス課	
	規則第9条第3号及び第11条各号に掲げる医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療サービス課	
	規則第9条第3号及び第11条各号に掲げる医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療サービス課	
	規則第9条第3号及び第11条各号に掲げる医療機関内における事故報告等の医療に係る安全管理の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療サービス課	

(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 石川 治
閲覧担当者氏名	総務課長 中島 玉男
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	1 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	0 件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	75.6%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算	A：紹介患者の数		14,444 人
出	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,632 人
根	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,187 人
拠	D：初診の患者の数		24,750 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式13-2)

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) (1名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (6名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none">・ 所属職員： 専任 (1) 名 兼任 (5) 名・ 活動の主な内容： 医療安全管理室<ul style="list-style-type: none">・ 医療事故発生時の即時対応・ インシデント・アクシデント報告書の即時調査、分析、管理・ 医療安全管理委員会、医療事故防止専門委員会、医療事故調査専門委員会、リスクマネージャー会議に関すること	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 当院における安全管理の基本的考え方：安全文化の育成・ 医療安全を推進するための委員会等の設置・ 職員に対する研修の基本方針・ 事故報告などの医療に関わる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針・ 事故発生時の対応に関する基本方針・ 情報の共有に関する基本方針 (当該指針の閲覧に関する基本方針)・ 患者相談への対応に関する基本方針	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 医療業務安全管理委員会：医療事故防止専門委員会からのインシデント報告書の分析結果等の報告を受け、分析結果や改善指摘事項等について協議するとともに、その改善事項等の決定及び各診療科等への改善命令等の決定を行う。・ 医療事故防止専門委員会：具体的なインシデント・アクシデント報告書の内容分析を行い、改善事項等について審議し、その結果を上部委員会へ報告するとともに、決定された改善事項についてやテーマを設けての病棟等巡視点検を行う。	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容： 18年度は全体研修として「針刺し損傷防止機構付き静脈留置針・翼状針使用説明会」(2回)、「ICT活動の現状と問題点－MRSAアウトブレイクの試練」、「KYT－安全先取り職場風土づくりをめざして」(2回)、「現場スタッフで始める院内ネットワーク～子ども虐待への病院スタッフの役割とは～」の4テーマ6回を実施した。ほかに全職員を対象とした目的別研修として「救命救急講習会」、「接遇研修」を実施。新入職者研修として前後期に「麻薬管理」、「輸液ポンプ、シリンジポンプについて」など各6テーマを実施した。ほかに新採用職員・研修医のオリエンテーションで、安全や感染に関する講演を行っている。安全ビデオの貸出も実施。	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 各診療科、病棟等にリスクマネージャー83名を配置。(配置部署は85ヶ所)・ 安全DVD貸出。月間強化テーマを設け医療事故防止専門委員による巡視。・ 医療安全情報の閲覧確認簿の設置	